

いじめ防止対策改善基本5か年計画に基づく命を大切にする教育の推進について

1 平成30年度取組状況について

- (1) 未然防止への取組について
 - ・すべての子どもが参加・活躍できる「わかる授業」づくり（協同的探究学習）の実施
 - ・児童会、生徒会が主体的に取り組む「心の絆プロジェクト」の実施
- (2) 早期発見・早期対応への取組について
 - ・「学校生活に関するアンケート（アセス）」、「心の相談アンケート」及び「教育相談」の実施
- (3) 関係機関との連携を強化した取組について
 - ・「スクールサポートチーム」による学校支援
- (4) 推進体制、検証体制を整える取組について
 - ・指導主事による学校訪問の実施。学校の推進体制の点検と内容の検証及び助言
 - ・いじめ認知件数の増加（平成29年度：290件、H30：676件、約2.3倍増）

2 成果と課題

- ・「絆プロジェクト」により、児童会、生徒会目線の主体的な取組が充実され、自己有用感を高めるユニット独自の活動がでてきた。
- ・指導主事による学校訪問で、いじめ見逃しのチェック体制が機能した。
- ・スクールサポートチームの活用により、複雑化する事案に対して、迅速かつ効果的な学校支援ができるようになった。
- ・「心の相談アンケート」や教育相談等を行うことで、気になることを児童生徒自らが教師に伝えようとする姿が見られるようになってきた。学校における教育相談の時間・場所の確保が課題である。
- ・SNSを使いたいじめにつながる報告が顕在化してきた。「ネットいじめ」対策づくりが急務である。

3 評価検証委員からの助言

- ・アンケートにも書けない子どもに対しては、普段からの教師の気づきが必要である。
- ・加害側の子どもへの支援や手立てを意識的にすべきである。加害側の子どもが、見つけてくれてありがとうというレベルまで育て、人にやさしくしたいと思える人になっていくことが重要であるため、そのような視点も大事にしてほしい。

4 令和元年度「加古川市いじめ防止対策改善基本5か年計画」及び1学期の取組について

- (1) 加古川市いじめ防止対策改善基本5か年計画（2019年度版）について
 - ・2019年度重点取組は、「いじめ見逃しゼロ」を目指し「いじめの正確な認知の推進」
- (2) 「いじめ防止対策改善プログラム」全体計画・年間計画（各学校分）について
 - ・全体計画の取組例
 - 小学校（児童会活動）：「ありがとうメッセージ」「お誕生日紹介」等
 - 中学校（生徒会活動）：「幸せ助け隊」を結成し、元気のない生徒や一人になっている生徒への声掛け等
- (3) 令和元年度1学期の取組
 - ① 学校生活適応推進研修（9回）
 - ・管理職、主幹教諭、学校環境適応感尺度（アセス）担当者、希望者が研修を受け、校内研修を実施
 - ・「いじめ見逃しゼロ」を目指した、いじめの正確な認知に向けた全市教職員研修の実施
 - ② 「学校生活に関するアンケート（アセス）」「心の相談アンケート」を受けて教育相談の実施
 - ③ 相談行動促進（自殺予防教育）リーフレットによる自殺予防教育の実施
 - ④ 指導主事による全校聞取り調査
 - ⑤ いじめ防止市民フォーラムに向けて、児童会・生徒会代表者ミーティングの実施
 - ⑥ 評価検証委員会の委員による現地視察（8月）